

クラス道徳

「撮れなかった一枚の写真」

吉田ルイ子さんは、1974年ベトナムの戦火の状況にカメラを向けていた。

あるとき、一組の母と子の姿を見つけた。大きな木の下に、片膝を立ててしゃがみ込んだ母親の膝の上にすやすやと眠る赤ん坊、竹の笠帽を枕に母親の膝の上でうつぶせている子ども、乱れた髪、痩せこけた頬の母の3人だった。母の思いつめた表情と平和な表情で眠る子どもと赤ん坊の対比に素晴らしい絵を感じた。カメラのファインダーを向けた。その瞬間母親は赤ん坊と子どもの顔を手で覆い、レンズから顔を背けた。シャッターの乗せた吉田さんの指は膠着してしまった。**撮りたかったのに撮れなかった。**もし撮っていたら、ピューリッツァー賞がもらえるほどの写真だったろう。

他のプロからは、批判の言葉を受けたが、吉田さんは「撮らなくてよかった」と思っている。

吉田さんは、「プロのフォト・ジャーナリストである前に、**私は一人の普通の人間でありたい。**」と感じている。

「一人の普通の人間でありたい。」とは、
どういうことだろう？

吉田さんは、どうして
シャッターを押すことが
できなかったのだろう？



吉田さんが、もし写真を撮って、
賞をもらっていたら、
どんな気持ちになっていただろう？

私たちは皆、
幸せになることを目的に
生きています。

(アンネ・フランク)

「私が私として
生きることを、
許してほしい。」
(アンネの日記より)

<みんなの感想>

- 写真で、その現場を世界中に伝えるのは、素晴らしいことだと思うけど、何よりも撮られる側の気持ちが一番大切だと思いました。何をやるにしても、人の気持ちは考えないといけないと思うけど、やっぱりプロはプロにしか撮れない写真があると思うし、人の気持ちを考える人にしか撮れない写真もあるのではないかなとも思いました。(Iさん)
- 筆者は「プロ」という言葉にとらわれすぎていたんだと思う。ただ、無心で、心を凍らせてシャッターを押すことこそがプロなのか？それはロボットではないのか。私は一人の人間の心を捨ててまでもプロにはなりたくないと思った。(Tさん)
- はじめは撮らないという意見だったけど、撮るという意見に変わった理由は、この写真を撮ったら賞をとれるかもしれないけど、それより、この写真を見た人がベトナムはこういう状況なんだと知って、援助してくれると思うから。(Mさん)
- 吉田さんも命をかけて、ベトナムに来てるし、もしその親子が亡くなっても、忘れられることなく、その写真が残るなら、撮るかもしれないけど、賞よりも大切なものがあると思う。(Iさん)
- 世界中の人間の一人ひとりの気持ちは誰にも分ることではないけど、一人ひとりが考えて、その人の気持ちに気付けるような人間になりたいと思った。(Aくん)
- 「普通の人間でありたい」ってすごく難しいことだとおもうけど、それをその瞬間に考えられた吉田さんは普通の人間よりも素晴らしい人だと思った。(Tさん)
- 吉田さんの判断は正しかったと思う。もしあそこで写真を撮っていたら、人としての大切にしなければならぬことを失っていたと思う。(Eさん)
- 苦しんでいる人を撮っていると自分は苦しい生活ではないのに、わざわざ戦場について、苦しい人と一緒にいることを申し訳ない気持ちになるから、この他にもカメラマンは悩むときがあると思った。(Nくん)
- 今日の授業で、まず優先すべきことは仕事も大事だけど、人としての気持ちが大事だということが分かった。だから何よりも人の気持ちを考えて行動していきたいと思った。(Yくん)
- 人は自分の思ったことを行動するから、相手の事を考えられていないことが多いと思った。自分もそのようなことがあるから、これからは自分の言った発言は大丈夫かと考えることが大切だと思う。(Kくん)
- 人の嫌なことを受け止めて、やめることはとても良かったと思う。その写真を撮っていたとしても、賞をとっても、撮られた人は一生悲しいし、撮った方も罪悪感が続くと思う。(Sくん)
- 自分の撮りたいという思いも大切だけど、相手の撮られたくないという思いも大切だということを学びました。「自分だけ良かったらいいんじゃない」ということを学びました。(Uさん)
- 何かに専念しすぎたら、何かを見放していることもあるのかなと思った。だから、どっかで一度立ち止まって、考えることも必要やと思った。(Kくん)
- 私がもし吉田さんの立場だったら、撮らないと思います。理由は、人が嫌がっていることをして賞がとれたとしても、罪悪感が残らない。撮らなかったら、賞はとれないかもしれないけど、その代わりに、人の嫌がっていることはしなくて済むからです。(Kさん)
- もしも、自分が吉田さんだったら、「写真は撮らない」と思いました。なぜかという苦しいし、嫌がっているのに、その写真で賞がとれてもうれしくないし、かわいそうだから。(Yさん)